

2002.10.1

「澤井河川塾」近畿通信 Vol. 24
(NPO 法人近畿水の塾ホームページ)

////////////////////////////////////
10/12(土)は「大阪川めぐり」です！！
////////////////////////////////////

【河川塾NEWS】

10月度「澤井河川塾 フィールドワーク第1弾」は、前回河川塾にて古川さんからご提案のありました『大阪川めぐり』を実施します。

下記ご案内をご覧の上、みなさま是非ご参加ください！

大阪川めぐりご案内

H14.9.25

新しくできた湊町リバープレイスや道頓堀川沿いの遊歩道を整備する事業箇所、大阪ドーム前の河岸整備など、水都復活を目指した様々な動きが都心部で生じています。10月12,13日と東京から友人三人がそんな大阪の状況を実際に確かめたいとやってきます。9月18日の澤井河川塾でこのことを話したところ、12日の川めぐりを澤井河川塾の行事として行うことが決まりました。

東京から来る三名は国土交通省都市・地域整備局勤務、都市基盤整備公団勤務、松戸市勤務など川屋ではありません。まちづくりのセンスでまちを生かす水辺整備のあり方を一緒に勉強している仲間です。

ただしまだ具体的なことはほとんど決めていません。大枠は以下の通りです。

12日午後1時 新大阪集合(地下鉄改札口手前)

バス地下鉄共通1日乗車券を購入して、いろいろな水辺を視察
中之島～木津川～道頓堀川というところでしょうか。

夜7時～ 情報交換会

一緒に街中の川を歩こうという方がおられましたらご連絡ください。

こちらから連絡します。

[古川博一 furuka.hirokazu@nifty.ne.jp (水公団勤務)]



【前回河川塾の内容】

「第21回澤井河川塾」

日時：9月18日(水) 19:00~

出席：澤井、古川、白木茂、白木江、久保田、西河、野添、南、水谷、小川、富田、
佐藤拓、佐藤侑（計13名）

内容：第一部

第5回「川の日」ワークショップ 準グランプリ 牛滝川

～“ひつじ”による河川環境づくり～（大阪府土木部河川室）

野添さんから牛滝川での標記取り組みに関して、パワーポイントを利用した
プレゼンテーションがありました。

大阪府では、本年4月から7月にかけて、二級河川牛滝川(泉大津市板原地先)
において、試験的にひつじを放牧し除草させたところ、除草や不法投棄の抑止に
効果があるだけでなく、地元の子供達がひつじとふれあう等「癒し」効果が非常に
大きいことが検証されたそうです。

これらは、除草ゴミや費用の軽減といった当初の目的から、副次的に地元の人々の
関心を川に呼び戻す契機となり、ひいては地元の川を“自分たちの川”と愛着をもって
認識してもらう等、ソフト面の効果に対する期待が高まっていったと言います。

「川の日」ワークショップの審査では、河川敷で“ひつじ”を飼うという
他に例を見ないユニークな試みや殺風景な公共空間に人々の気持ちを呼び込もうとする
手法等に高い評価が与えられました。

また大阪府ではこれらの経過を踏まえ、『“ひつじ”による河川環境づくり』を実施
するべく場所の選定をしていたところ、和泉市内田町内会からの実施要望があったので、
「アドプト・リバー*」事業により、ひつじ飼育を手段とした府民協働が本格的に実施
されることになったそうです。

この事業では“ひつじ”の小屋出しなど日常のお世話を町内会をはじめとする
地元の方々の役割とし、健康管理などの専門的な生物管理のみ大阪府等が担うという
ものです。

河川の高水敷のうち約1,500㎡を柵で囲い(和泉市久保惣美術館裏)、その中で
“ひつじ”を放牧しています。年当たり400千円ほどのコスト削減効果があるそうです。
これからも地元からの要望があれば、このような事業を拡げていくとのこと。

上の話を聞いて河川塾の場では、河川敷でこのような生物飼育を行うことのリスク
(飽きっぽい子どもたちの興味をいつまで引き付けておけるか？

人々が川本来のものに目を向けている状態ではないこと)などはあるものの、
河川敷利用の自由度が高まり、いつでもどこからか川に近づくことのできる選択肢の

1つであるといった理解がなされたと思います。

住民からの苦情で役所が動くのではなく、新しい取り組みに対して地域が積極的に役所に働きかけを行ったところも注目すべき点であったと思われます。

ここで私たちの提案として、川本来の自然景観や生物資源を守るためには、このような“ひつじ”を利用した除草や一般の草刈りも実施区間と時期をずらして行うことにより、目標とするものを保全・創出できるのではないかと、またそのためには地域と行政側の間で、「望まれる川の姿」に関する何らかの合意が必要ではないかという意見があげられました。

* 「大阪・アドプト・リバー・プログラム」

「アドプト」とは「養子にする」という意味です。このプログラムは、地域を愛する気持ちを原動力とするボランティア団体の皆さんが、関係市町村や大阪府と協力し合いながら継続的に清掃活動などを実施していただき、地域に愛される川づくりや地域の環境美化に取り組む制度です。(大阪府河川室<http://www.pref.osaka.jp/kasen/>)

第2部

第5回「川の日」ワークショップ グランプリ 寝屋川

寝屋川再生ワークショップ(ねや川「水辺クラブ」)

澤井先生と久保田さんから資料とOHPを使って「寝屋川再生ワークショップ」の取り組みに関して、報告がありました。

また、澤井先生から日野川の近況報告と日野川事件簿(?)のお話もいただきました。

1. 寝屋川再生ワークショップの報告 (久保田さん)

- ・寝屋川市では市制50周年を記念して、1級河川寝屋川再生の計画策定を市民参加のワークショップ形式で取り組むことになり、市民委員を公募したところ30人の定員に対し61名の応募がありました。
- ・これを受けて、応募者全員とオブザーバーとして大阪府河川室、摂南大学の学生などの方々に参加を得て、「寝屋川再生ワークショップ」がスタートしました。
- ・全5回のワークショップを行い、この間にもクリーンリバー作戦や生物調査等、川に関する様々な活動を展開してきました。
- ・ワークショップを進める過程で、自然的な発生により世話人会議が組織され、事務局機能を果たすなど、行政が運営するワークショップの「実働」の中心に市民が位置しています。
- ・市民委員・参加者自身が自治会や野鳥の会などさまざまなコミュニティの代表であり、

このワークショップがそれらのネットワーク的な役割を果たしました。

・ワークショップの最終回では、「ねや川水辺クラブ」として委員発案の自主組織が発足、今後も具体的な活動を「提案から行動へ」「川づくりからまちづくり」へと発展させていくことが確認され、現在も活発な活動を継続中です。

・「川」を魅力的にするのはやっぱり「人」。

人と人をつなぐワークショップの可能性は参加者の力にかかっていると感じています。

2. 寝屋川市における住民参加による水辺再生への取り組み（澤井先生）

- ・全国的にも有名な密集市街地であり、また治水対策が難しいことで知られる“あの寝屋川”で異変(!)・・・「寝屋川再生プランワークショップ」の開催
- ・公募による市民委員を中心に、寝屋川の現状認識から将来構想まで幅広い議論とクリーン作戦への参加や水生植物の植付実験への参加などの実践活動
- ・澤井先生は4名の学生さんと共にワークショップに参加
半ばアドバイザーとしての役割も 専門的な見識による評価
- ・ワークショップから自主的に生まれた「ねや川水辺クラブ」
環境部会、清掃部会、親水部会、歴史・文化部会の4部会が設けられ、
全会員がいずれかの部会に属す。また、行動はすべての部会の共同
- ・寝屋川本川ポート下りの際の「きづき」と寝屋川放水路でのショック
決して望ましくない状態が却って行動のエネルギーとなりえるが、あまりに汚すぎると・・・シンボルや身近な目標から問題解決へ カワセミやキショウブなど
- ・寝屋川駅前広場整備に伴う河川改修(ワンド整備)の提案、
土砂浚渫工事により喪失する河道内砂州の保全提案など
市民の側からの行政への積極的な働きかけとそれらに対する行政の支援

(寝屋川市下水道管理課<http://www.city.neyagawa.osaka.jp/river/river-index.htm>)

3. 京都市日野川における住民参加による水辺再生への取り組み（澤井先生）

- ・河川塾も参加したピオトープ池づくり、河道内の交互砂州づくりを経て「わたしたちの日野川をつくるワークショップ」へ(計3回 京都市主催)
- ・ワークショップの最終案は、河川護岸を保育園側に掘り込みワンドを形成、一部を階段護岸を用いて水辺に近づける形態とし、また本川との間に砂州を設けるほか、親水性を高めるための飛び石を配置したもの(現況の寄洲は保護される)
- ・現在、京都市において最終案に従った詳細設計が進められており、今年度中には工事が行われる運び
- ・“あの”寄洲がさらに成長した所には野草や底生生物の定着
澤井先生自ら上流区間の魚を数十匹捕獲し、放流 定着
- ・この直前に、突如川の水が濁り、魚が浮く事件(?)が発生

再発防止策や行政区分の問題、市民としてどこまでできるか、やるべきか？
・土居川と同じく都市の小河川であるゆえの共通の課題 = 水量と水質の確保

下水道整備の進んだ段階では、流入水のほとんどは雑排水と下水処理水

<感想>

「寝屋川・・・」の例はまさしく「川」の力は「人」であるの思いを強くさせました。

「澤井先生と久保田さんのコンビならどんな川でも良くなりそう」そんな言葉も・・・

日野川の近況は懐かしい思いで、澤井先生の事件簿はドキドキしながら聞かせてもらいましたが、やはり最後には都市河川の『水量と水質』の問題に行き着き、あらためてこの問題の難しさを考えさせられました。

ヒントは集中的な大規模処理でなく、個別の小さな単位での水質浄化でしょうか？
リサイクルもエネルギー問題も時として同じ原理で語られることがありますよね？ [拓]

【次回の予告】

次回、「澤井河川塾」のご案内です。

第22回「澤井河川塾」

日時：10月16日(水) 19:00～21:00
・・・毎月第3水曜日開催です！！

内容： シリーズ(19:00～19:30)
プレゼンテーション

「NPO法人 近畿水の塾」

理事長 福廣さん 副理事長 澤井さん

この8月に誕生したNPO法人 近畿水の塾についてのご紹介と入会のお誘いです。

第1限(19:30～20:20)

報告会 1

「大阪 川めぐり」

古川さん

10/12の「澤井河川塾 フィールドワーク」の様をご報告いただきます。

第2限(20:30～21:00)

報告会 2

『第2回川に学ぶ体験活動発表交流会 in 北九州』

10月12日～14日に北九州にて開催されました
標記について、川上さんにご報告いただきます。

持ち物 : 情報・資料提供、大歓迎です！

みなさん、どうぞふるってご参加ください！！

【川の情報ボックス】

イベント情報

「琵琶湖・淀川舟運体験メッセージリレー」

日程：平成14年10月13日（日）・14日（月）

内容：1日目（午後から）三栖閘門～三川合流～枚方船着場・交流会（枚方河川公園）
～テントで野営～

2日目 枚方船着場～毛馬閘門（ここまで午前）～天満橋港～淀屋橋港
1日しか参加できない人のためのコースもあります。

13日コース：三栖閘門～三川合流～枚方船着場 （12:00～18:00）

14日コース：枚方船着場～毛馬閘門～天満橋港～淀屋橋港(9:00～17:00)

お問合せ：〒540-0031 大阪市中央区北浜東1-29 横井北浜ビル2号館5F

第3回世界水フォーラム琵琶湖・淀川流域連携実行委員会事務局 担当 赤瀬さん

06-6941-6222 Fax 06-6941-6225 E-mail:wwf3ryuiki@nifty.com

[URL:www.kkr.mlit.go.jp/water/biwayodo/index.html](http://www.kkr.mlit.go.jp/water/biwayodo/index.html)

[淀川愛好会広報 19より転載]

イベント報告（速報版）

「第4回内川・土居川まつり」

“遊ばへん！手を取りあって、輪になって”

『水澄む川をみんなでつくろう。』

日程：平成14年9月29日（日） 9:45～16:00

場所：ザビエル公園・ザビエル公園西側内川河川敷

主催：内川・土居川まつり実行委員会・堺市

4月～6月度河川塾で西河さんから『マイリバー紹介』していただきました堺の土居川にて、上のおり「内川・土居川まつり」が開催されました。

NPO 法人 近畿水の塾からは、白木さんと事務局（佐藤拓・佐藤侑）が見学に参りましたので、簡単ですがご報告させていただきます。

事務局二人が到着したのは15:00過ぎ(遅すぎ。。。)だったため、数々の催しはすっかりフィナーレを迎えて(西河さん達のバンド演奏も終わっており・・・)ましたので、各会場を歩き回った雰囲気のみですが、全体的に家族連れの姿が多く、そのせいか木工細工やカヌー体験、内川に生息する生きものの水槽展示など、至るところに元気な子どもたちの姿が見受けられました。

また上潮時刻だったせいか、新橋ゾーンのライブステージとなった平台船上で唄うミュージシャンも、戎島橋ゾーンで歓声を上げながらカヌーを漕ぐ子どもたちの顔も、川の水面と人々の距離が非常に身近に感じられるイベントでした。

今回このような感想を得たのは、それらの船着場となった親水テラスで、川と街を隔てる柵が取り払われていたからかもしれません。

このような光景がいつでも見られるような日が、いつか来るような気がしてなりません。「内川・土居川まつり」、来年はきっと出展したいですね！

(帰りに覗いた土居川には、イルカのモニュメントが水面に跳ねていました！) [侑]





第4回内川・土居川まつり」の様と土居川のイルカモニュメント

【事務局より】

さあ、次回の河川塾でご紹介致します通り、いよいよ「NPO法人 近畿水の塾」のスタートです。『澤井河川塾』も「NPO法人 近畿水の塾」の公開研究会として位置付けられ、更なる発展を目指します。

また、「NPO法人 近畿水の塾」の設立記念会を企画しておりますので、近々ご案内できることになりそうです。

みなさんも仲間になりませんか？

今すぐ、<http://www.geocities.jp/mizunojuku/index.html>をクリックしてみてください!!

NPO 法人近畿水の塾



毎月1回開かれる定例理事会の様子